



July 2013 No.354-355

7月号の1枚：森の救急救命講習会

【巻頭言】 森林現場・・・人々の認識

人々の森に対する認識の ギャップは益々広がっている

新聞やテレビ、雑誌の報道では、森林減少や荒廃の場面は説得力があり、森林の大切さへの人々の理解はかなり深くなっている。然し、これが適切な森林管理に結びついているようには思われぬ。何故なら、森林情報や状態は知ってはいるが、人々の森に対する認識のギャップは益々広がっているように思われる。何故だろうと考えて思い当たるのは、都会でも田舎でも生活（衣食住）が一律化して、自然との距離感がなくなったからではないか。

森林理解を進めるためには、そのギャップを埋める事から始める必要があると思う。その方法として、森林・林業の課題解決のためには国民参加が必要で、人々に森の現場に来てもらって森林整備の作業をすとか、森林NPOや林業に携わる人々が、都会の生活の場に出掛けて行って、森林の実態を語りかける仕組みづくりを多くしたら良い。

当会は、森林現場活動だけでなく、都会に出掛けて行って、森林広報の場をなるべく多く設けるようにしてい

る。特に有難いのは当会活動には若い人の参加が多く、知識、体験の吸収が早く身軽であることから、機会あるごとに都会に出かけて広報活動をしてきている。こんな交流の幅を広げて行けば、森林現場と人々の認識の差が少なくなる。

森林は、空気・水・土壌を供給してくれる極めて公益的な存在であるから、国民参加をしながら木の良さを知って、木製品を使ってもらう活動をもっと広げることが求められる。

石村 黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動



2013.07

7月 7日（第一日曜日）：

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。

持続的森林経営：弁当持参。参加費：400円

7月21日（第三日曜日）：

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：400円



責任ある森林管理
のマーク

[定例活動]小原本陣の森

6月2日（第一日曜日）

空の青と山々の深緑が美しく混ざり合う季節になりました。小原での活動は、前回橋をかけたところから、径路の補修箇所はないか確認しながらさらに登って、沢沿いと、中腹での作業になりました。今回は2つのイベントに定例活動が重なったため、学生の参加は1年生4名と上級生4名、計8名と少ない人数での活動になりました。

午前中は、径路をどのように補修すれば人の歩みを導けるのか、土留をどのように造れば雨で山肌が流されないのか考え、計画を立てることから始まりました。今まで作った経路を歩いていくなかで、山肌が崩



れ、倒れた木が一方方向に向かって流れていたのが特に目につきました。このような状態になってしまった理由も考えながら、補修の計画を立てました。その中で1年生からも活発な意見を聞くことができ、新たな視点から径路を見つめ直すのも重要だと気付かされました。

ある程度計画が共有されてから、細かい小さな欠頂木を選んで間伐を行ったり、径路に使えそうな山肌を滑り落ちていた材の引き上げをしたりしました。その中で、角田さんからロープ、スリングの使い方を再度教えていただき、安全な作業手順を考えるうえで重要なことを再確認しました。

午後からは、集めた材を使って径路の補修をしました。1年生だけで径路の補修をしてもらった部分もあ

り、一人一人が頭をフルに使った充実した活動になりました。製材の方ではヒノキの半割を行い、節が多くなかなか切ることができなかったので、一本半割しました。

山での本格的な作業がしたい、技術を学びたいと思って、皆さんと一緒に活動をさせてもらうのも、もうすぐ1年になります。いつも学ぶことがたくさんで、学校では教えてもらえないことを、Forest Nova☆のメンバーをはじめ、この活動に参加されている様々な方に教えていただいています。今回は、Forest Nova☆1年生の皆さんと直接かかわって作業をしましたが、今まで私が教わってきたことをきちんと伝えられたのか疑問が残りました。伝えることと、一緒に知り新たな発見をすることは、森での活動の質をさらに高めていくものだと思います。技術に留まらず、技能を高めていきたいと思っています。教えを請う立場から、伝え共に考えることのできる人にならなければと感じました。

緑のダムの皆様、Forest Nova☆の皆様、そのほかこの活動を通して出会った皆様、いつもありがとうございます。

磯崎 愛永 (ForestNova)

[定例活動]相模湖嵐山の森

6月16日（第三日曜日）

梅雨入りということもあり、朝から雨。だが、4月の活動日の時ほどひどい降りではない。当然のこと決行だ。作業基地にはブルーシートがいくつも張られ準備万端。ところがどういう訳か、シートを張ってしばらくすると雨がやむ。4月もそう。なら、初めから張らなければ世話はないと思うのだが、恐らくそうは問

屋が卸さないだろう。嵐山のブルーシートはてるてる坊主のようなものなのかもしれない。

さて今日も参加66名という大人数。試験週間のため高井戸中学生がお休みにもかかわらずだ。もちろん、活動内容も盛り沢山。お花畑班と森林整備班は合同で遊歩道の整備。あらかじめ用意しておいた木材チップを道に播いていく。歩きやすさと景観とを考えてのこと。雑草の繁茂を抑える効果も期待できそう。フォレストノバは新入生と、同じ麻布大の原田教室の学生たちを森に案

内した模様である。私は体験学校に付く。斎藤校長の解説に時々耳を傾けたり、レンズを向けてみたりともっぱら取材役。参加は生命の森宣言東京の若手グループと東京学芸大の学生たちである。森を歩きながら、その果たす役割や施業の大切さについての丁寧な語りに皆興味津々。

昼食後は救急救命講習が開かれた。講師はもと東京消防庁に勤務していた石井さん。この付近の山々の説明から遭難、事故の事例、もしもの時の対処法等、実地に役立つこと

ばかり。止血法、三角巾の使い方、さらには上着を用いての担架づくりではフォレストノバの吉崎さんが怪我人のモデルとなり、場は大いに盛り上がる。ここでの写真は会報のトップに掲載？（掲載させていただきました、編集係より）ともあれ、こうした講習は我々の活動には必須のもの。各自治体にある消防署で講習を受ければ救急救命士の資格がもらえるので、興味のある方はどうぞ。

午後からも作業は続く。森林整備の名手・木林士は木工班長・松尾さんの指導のもと手慣れたチェーンソーを木工機材に持ち替え、ベンチづくりに挑戦。フォレストノバは6

月30日に開かれる相模原環境祭に出店予定の木工の試作に取り掛かる。初参加の小学生・海羽（みう）ちゃんがノバの芦田さんと仲良くぴったり寄り添っている姿は微笑ましい。海羽ちゃんはノバのメンバーから「森の妖精」と呼ばれていて、すっかりアイドルになっている。

一方、学芸大チームは宮村さんの指導のもとボサ刈りに奮闘。場所はフォレストノバの森の手前の三叉路付近。皆、熱心に取り組んでくれたお蔭でつや灌木でうっそうとしていた藪がみるみるきれいになっていく。普段はあまりしたことの無い作業であろうが、学生たちは午前の体験学校と合わせ大変満足してくれた

よう。後日、樋口先生から丁寧なお礼のメールをいただいた。

本日の作業も事故なく無事に終了。基地周辺では栗の花もいよいよ盛りを過ぎ、代わってクララやウツボグサが咲き始めている。夏は近い。

内野 郁夫（本会、理事）



[報告1] 第11期通常総会を 行いました

第1号議案 2012年度（第10期）事業報告および、収支決算

【1】年間の経過概要

前半：「第39回さがみはら桜祭り（4月7日、8日）」

後半：15年間の記録を残す為、丸茂会員にその編集をお願いし10月に刷り上がりました。

＊主な新たな交流

24年 9月：麻布大学嵐山来訪

10月：大日本山林会、定期シンポジウムに参加。交流開始。

11月：金原明善治山治水財団訪

問、林業経営現場の見学と交流。

25年

1月：林野庁林政部

【2】個別の事業概要

「森をつくる」

○小原本陣の森

整備作業を津久井郡森林組合に引き継ぎ。

○相模湖・若柳嵐山の森

「若者による国際認証による森づくり」を提案。杉並区立高井戸中学校・地球環境部8月：コカ・コーラの環境教育賞・優秀賞 平成25年3月：杉並学校文化栄誉顕彰。

学生連合フォレストノバ、活動は、当会と協働し7年目
新たな森林ネットワーク、緑のダム

河口湖

「森をいかす」

「相模湖森・モノづくり研究所」が発足。

「森とつなぐ」

4月7日、8日：市民桜まつり

5月19日：緑のダム体験学校、神奈川県後援

9月15日：かながわ力大賞受賞、主催・日本青年会議所神奈川支部

9月25日：神奈川県森林広報参加

10月4日：さがみはら環境まつり
「宇宙と森のコラボレーション」

25年

2月20日：フォレストキッズスクール（協力：JFIK）

特記事項

平成25年6月30日、「さがみはら森林環境まつり」にて、相模原市立会の下、麻布大学と調印します。「民学協働」と言う新たな形形の協働事業ですが「森林の公益性」に鑑み、産+官・全ての人々との協働」を目指します。

【3】収支決算報告

配布資料により収支決算報告が行われ、財務諸表について小林照夫監事から問題がない旨、監査報告がありました。

2号議案 2013年度事業計画、収支予算

【1】2013年度の活動目標（これから15年の第1年目は、その足元を固めます）

提案課題

- 1)森林・林業の復権
- 2)若者による国際認証の森づくり
- 3)「民・学協働」から全ての人々との協働に

「森をつくる」

新たに麻布大学との協定（民・学協働）より昨年来の課題である

「若者によるFSCの森づくり」を具体的に検討する段階に入りました。相模原市と協働（平成22年～24年）後、津久井郡森林組合が森林整備に入り、美林に生まれ変わりつつあります。

「森をいかす」

当会として我が国の「森林・林業の復権」の方法を探る事を試みます。「さがみ湖・森モノづくり研究所」、相模原市を核に半径30km「サプライチェーンモデルづくり」を検討中です。

「森とつなぐ」

相模原市グリーンハブ化を更に進めるために以下に取り組んでいます。

4月7日～8日 市民桜まつり

5月25日 森のフェア

5月28日 上智大学オールソフィアーズフェスティバル

6月1日～2日 NHK ECO PARK 2013

6月16日 緑のダム体験学校（学



芸大学、生命の森宣言・青年部）
6月30日 相模原市立会の下、麻布大学との連携協力に関する包括協定に調印。

8月13日～24日 国連大学1F地球環境パートナーシッププラザ、「自然と文化があるところに幸せがある」
定例の11月3日の小原「本陣祭」

【2】第11期 事業計画・収支予算書
事業計画・収支決算について配布資料をもとに説明を行いました。

報告：緑のダム北相模・事務局

【報告2】森林体験ツアー

5月の企画には、20～70歳の男女28名が参加し、車中では菅原リーダーが我が国の森林の歴史と現状、課題について分かり易く説明してくれました。また、往きの車中では「山の歌」の大合唱など大いに盛り上がりました。

森では2班に分かれ、初参加者13名は「緑のダム体験学校・齋藤校長」より森を散策しながら始めて知る森の大切さに驚きました。

ベテラン参加班は、秋の伐倒期に向けて下草刈りに取り組みました。

お昼休み・昼食後、森の広場で「宮沢賢治作詞・作曲：チェロ弾きゴージャ」のチェロ演奏と朗読には感動しました。こんな素晴らしいことが森の中で体験できるとは驚きです。そして、流れてくる森の風は、何とも言えない良いものでした。

午後は2班が合流し、杉のズ

ドーンと倒れる鋸引き・伐倒体験では樹々にも生命が有ることを実感しました。私たちの活動は既に6年目に入り平均参加は6名ですが、今回の活動では”数は力なり”と実感させられました。一人でも多く森に来て貰い、手を携えて森を守り・育て・後世に残さねばと思います。次回は、「中・高・大学生」を連れてきましょと嬉しい話も出ました。

佐藤 武行
(生命の森宣言・東京)

[報告3]

フォレストノバ、NHK ECO PARK2013に出展

6月1日～2日

このイベントは、環境問題に取り組む大学生やNPO団体が協力し、節電やリサイクル、エネルギーシフトなど、生活に密着した視点で地球にやさしい暮らしを考えていくイベントです。幅広い世代の方に楽しんでいただける参加・体験型の展示やワークショップ、ステージイベントが行われます。

ForestNova☆からは二日間合わせて20名前後の学生が参加をしました。

私たちの出展スペースでは、森と海、森と人の関係を視覚的に知り、楽しんでもらえるような森の模型を設置しました。さらに、森への意識を知るためのアンケートや緑のダム、小原の方々、様々な大

学との繋がりを記したパネルの展示を行いました。今回は、こちらから森の知識を一方向的に伝えるのではなく、人との自然なコミュニケーションの中でお互いに森について学び、考えていくという姿勢で行いました。これは、私たちが活動をしている際に、緑のダムのみなさまが教えてくれている姿勢そのものです。

参加者のほとんどが一年生だったこともあり、始めのうちは来場者の方とどう話せばよいか試行錯誤ばかりでした。しかし、何かある度に全員で連絡、相談、報告を行うことで、徐々に改善されていき、イベントの後半では来場者の方とForestNova☆の面々が一体となって森について考えていくことができました。

また、イベントの間には、ステージ上で『環境問題に携わる若者のディスカッション』という主旨の企画が行われ、私が参加をして



きました。発表時間が2分弱しかないということもあり、普段の活動のことを伝えることは非常に難しかったです。

森と人が共助共生していくためには、現地で学んだことをより多くの人に広めていかなければなりません。そのためには、こういった一つ一つのイベントを大切に、限られた時間、場所の中で伝えていく術を磨いていくことが、今後の課題になっていくのではないかと感じました。日々研鑽、日々勉強の精神で今後の活動も続けていきたいと思えます。

浅野 雅樹 (Forest Nova)

[報告4]上智大学オーストリアンズフェスティバルに参加

5月26日

今回のイベントでは、初参加の1年生の感想を掲載します。



僕は積み木の山を見たときあまりの多さにおどろいた。アンコールワットをつくるとは聞いていたけれど、すごく多かった。アンコールワットの下の部分をつくっている時も四つの壁をつくるのにとてもたくさんの積み木を使って

いて、子どもの遊びとは違ってスケールの大きなものを作るということが分かった。中心の塔の部分だけでも長い時間と積み木を使ったのに、周りを作るなんて思っていなかったからだ。でも、一つずつ組み立てているうちにだんだん楽しくなっていた。

そして、アンコールワットが出来上がったと

きは、がんばってよかった、と思った。また積み木で何かを作るときはもっとすごいものを作りたいと思いました。(1年生男子)

今回のイベントは夏休みの国連大1F地球環境パートナーシッププラザでのイベント「自然と文化があるところに幸せがある」のいわば前哨戦的な位置づけでした。このサイズのアンコールワットにさらに磨きをかけ、夏休みのイベントを成功させたいと思えます。

宮村 連理 (本会、理事)

[事務局からの お知らせ、お願い]

6月30日にミウイ橋本で行われ
たさがみはら環境まつりを写真
でご紹介します



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までに
JR相模湖駅前集合してください。
服装、持ち物については、
汚れても良い服装、着替え、滑
らない靴 成るべく皮製手袋、
万一の怪我に備えて保険証、飲
料水、主食；自分の食器(お
椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボラ
ンティア保険の準備の他、会と
して可能な限りの体制を敷いて
いますが「怪我・事故は、自己
責任」です。



会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたしま
す。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、
こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入し
て、機械操作にてお振り込みいただくと助かります。

世田谷郵便局 (記号) 10000- (番号) 65791651

NPO法人

緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
(台風の日も勉強会開催。16年間、
一日も休まず“継続は力”。)

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL：http://www.midorinodam.jp

E-mail：info●midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp 会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学附属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版